

皇居三の丸尚蔵館

ニュース

The Museum of the Imperial Collections,
Sannomaru Shozokan Newsletter

vol.1

令和8年(2026)
秋号 | 創刊号



いとうこうちょう せきくじつほうめい ず 旭日鳳凰図 江戸時代、宝暦5年(1755) 皇居三の丸尚蔵館収蔵

SHO ZO KAN

特別展
グランドオープン記念

展覧会情報

皇居三の丸尚蔵館
グランドオープン！
館長インタビュー

特集



皇居三の丸尚蔵館長

しま たに ひろ ゆき
島谷 弘幸

昭和28年(1953)、岡山県生まれ。

東京教育大学卒業。同59年(1984)より東京国立博物館に勤務。平成27年(2015)に九州国立博物館長に就任。令和3年(2021)より国立文化財機構理事長を兼務。同5年(2023)10月より、国立文化財機構理事長兼皇居三の丸尚蔵館長。



グランドオープンを迎え、責任の重さを痛感するともに、ようやくこうして皆さまにご来館いただけること、そして今回の特別展を楽しんでいただけることに大きな喜びを感じています。残念ながら皇居三の丸尚蔵館をご存じでない方はまだまだ大勢いらっしゃるのです。このグランドオープンを機に多くの方に当館を知っていただき、いずれは「日本の博物館と言えば皇居三の丸尚蔵館」というくらいまで認知度を高めていきたいと考えています。そのために展覧会やイベント企画の充実を図り、情報発信とコミュニケーションのツールとして、広報誌『皇居三の丸尚蔵館ニュース』も創刊いたしました。現在、当館がある皇居東御苑には日々、非常に多くの方が訪れていらっしゃるようですので、この機会にぜひ、新しくなった当館にもお立ち寄りいただけたらと思っています。

このたびの全面開館に際し、あらためて当館の果たすべき役割やこれからの展望について、島谷弘幸館長に聞きました。

Interview with the Executive Director 皇居三の丸尚蔵館 グランドオープン！ 館長インタビュー

当館の収蔵品はその名の通り、皇室に代々受け継がれた品々を中心に構成されています。これらの貴重な作品を大切に保管し、より良い状態で次の世代に伝えていくことが当館の最大の使命です。長年、国立文化財機構で培った知見を活かし、修理を要するものには現状をできるだけ残す適切な修理を施し、きちんと保管することで、その作品を観る楽しみを100年後も200年後も多くの方と分かち合いたい、そう考えて取り組んでいます。このたび旧施設からの改修が完了し、収蔵庫も拡充されて収蔵品の保管環境が十分に整ったことも大変喜ばしいことです。

これらの収蔵品には、江戸時代までに皇室に伝えられた作品、その後、明治以降に皇室へ献上された作品、皇室がお買い上げおよび発注した作品、海外との交流で入手した作品があります。実はこれらのうち明治以降の作品が多い





皇居三の丸尚蔵館 外観(南面)／近代的なデザインでありながら、日本の伝統的な趣も感じられる意匠となっています。

のですが、これは、廃仏毀釈が進み、時代とともに生活が洋風になっていく中で、日本ならではの美術や工芸などが廃れることのないようにと、皇室が文化財保護に心を尽くされた結果です。芸術家や工芸作家、現代で言うアーティストたちは、より良いものを創ろうと腕を振るい、数々の優れた作品が誕生しました。当館の収蔵品をより多くの皆さまにご覧いただくとともに、このような皇室と日本文化の密接な関わりについても伝えていきたいと思っています。それも当館の重要な役割と考えています。

また、国際的にみれば海外にも多くの王室があります。先日、オランダ王室のロイヤルコレクションと国際交流協定を結んでまいりました。これからは展覧会や研究者の交流などさまざまな機会を通して、互いの国の文化を知り、深く理解し合うための活動を積極的に推進していきたいと思っています。やがてそれが当館から多くの日本の方々に伝わり、海外からご来館くださった方々を通じて世界にも広がっていくことを願っています。



オランダ王国・ロイヤルコレクションズ
(Royal Collections of the Netherlands)
との国際交流協定(MOU)締結の様子
令和8年(2026)7月30日
於：アムステルダム王宮

今回のグランドオープンによって展示スペースが広がり、バリアフリーも一層推進されました。展示室は旧施設のおよそ8倍となり、アップダウンのないフラットな館内は、どなたにとっても心地よく、ゆったりと作品をご覧いただける環境です。心ゆくまで作品の素晴らしさをご堪能ください。同時に、展示されている作品をどなたが献上なさったのか、どなたがお使いになったお道具なのかなど、その背景に皇室との深いつながりを感じていただけたらと思います。これは当館ならではの鑑賞の醍醐味と言えることでしょう。今まであまり博物館を訪れる機会がなかった、美術に触れることがなかったという方も、ぜひ何点かお好きな作品、気になる作品を見つけていただき、その印象や感じたことを心の引き出しにしまってお帰りください。もう一度観たい、あるいは次は何を観ようかと興味や期待が広がり、美術、芸術をより身近なものに感じていただけたらと思います。

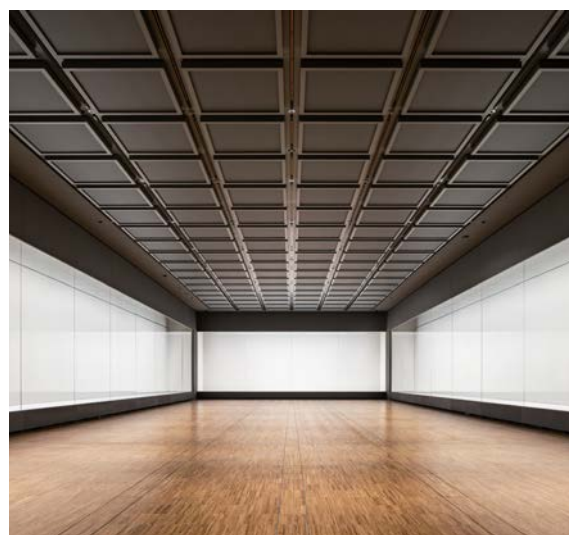
皇居三の丸尚蔵館では、今後も展覧会だけではなく、講演会やワークショップ、鑑賞プログラムなどさまざまな形で当館を愉しんでいただける機会をご提供いたします。これからの皇居三の丸尚蔵館にどうぞご期待ください。ぜひお気軽にご来館いただければ幸いです。

開館概要

三の丸尚蔵館は、平成元年(1989)、上皇陛下と香淳皇后により皇室ゆかりの美術品等が国へ寄贈されたことを受け、保存・研究・公開を目的として、同5年(1993)に皇居東御苑内で開館しました。館名の「三の丸」は旧江戸城三の丸の地にちなみ、「尚蔵(しょうぞう)」は大切に保管するという意味を持ちます。

その後、各宮家等からの寄贈を受けて収蔵品は充実し、令和元年(2019)からは施設の拡張整備が進められました。同5年(2023)には国立文化財機構へ移管され、「皇居三の丸尚蔵館」の名称で、同機構が運営する5番目の国立博物館として一部開館し、展覧会を通じて収蔵品を紹介してきました。

令和8年(2026)秋の全面開館では、平成5年(1993)に開館した旧施設と比べて展示面積が約8倍となりました。装いを新たにした皇居三の丸尚蔵館が、いっそう充実した展示で皆さまをお迎えします。



第3展示室(590㎡)を加え、合計1,280㎡。旧施設(160㎡)と比較すると、展示面積は約8倍に拡充されています。

皇居三の丸尚蔵館グランドオープン記念特別展

第一弾

特別展「皇室の至宝—美しいところ」

令和8年(2026)11月3日(火・祝)～令和9年(2027)1月24日(日)

主催：皇居三の丸尚蔵館、読売新聞社、NHK

皇居三の丸尚蔵館の全面開館を記念して、3つのグランドオープン記念特別展を開催します。
歴代の皇室に伝えられた名品を中心にご覧いただきます。



螺鈿紫檀琵琶
北倉27
中国・唐時代
または奈良時代
(8世紀)
正倉院
【前期展示】



国宝 狩野永徳 唐獅子図屏風(右隻)
安土桃山時代(16世紀) 皇居三の丸尚蔵館収蔵【後期展示】



荒木寛畝 孔雀図
明治23年(1890) 皇居三の丸尚蔵館収蔵【前期展示】



重要文化財 摩耶夫人および天人像
飛鳥時代(7世紀) 東京国立博物館【中期展示】
Image: TNM Image Archives

いま、新たな扉が開かれる。

● 会期中、作品の展示替えを行います。

前期：令和8年(2026)11月3日(火・祝)～23日(月・祝)
中期：令和8年(2026)11月26日(木)～12月20日(日)
後期：令和8年(2026)12月23日(水)～令和9年(2027)1月24日(日)

● 日時指定制

※本展は日時指定制です。一般・中高大生の方は事前予約が必要です。会場での当日券販売はございません。※有料・無料を問わず、予約が必要な区分(一般・中高大生)については、各回の入場枠数に限りがございます。※無料入場の方は、学生証・障がい者手帳等の証明書を当日ご提示ください(小学生以下を除く)。※当日の混雑状況により、ご入場までお待ちいただく場合がございます。

ご予約はこちらから

<https://shozokan.nich.go.jp/feature/grand-opening/beauty/tickets.html>



展覧会特設サイトはこちら

<https://shozokan.nich.go.jp/feature/grand-opening/beauty/>



本展覧会は、皇居三の丸尚蔵館のグランドオープン記念する特別展の第一弾として開催するものです。平成5年(1993)に「宮内庁三の丸尚蔵館」として開館して以来、これまでに収蔵し、調査研究を重ねてきた、日本美術の精華というべき名作の数々を展覧します。さらに、奈良の正倉院宝物が初めて皇居内で一般に公開されるほか、聖徳太子ゆかりの法隆寺献納宝物、平安時代から続く宮廷文化の粋を極めた書画、近世近代の名品が一堂に会します。

古代から現代まで、悠久の時を紡ぎながら皇室に受け継がれてきた至宝をご覧いただくことができます。美しき芸術が生まれいづる国・日本の文化と、皇室の歴史に広く触れていただく機会となれば幸いです。

(当館主任研究員 田中純一郎)

第二弾

特別展「国宝 動植綵絵 いろどりの世界」

令和9年(2027)2月4日(木)～3月14日(日)



右
国宝 伊藤若冲
動植綵絵 群鶏図
江戸時代、宝暦11年～明和2年(1761～65)
皇居三の丸尚蔵館収蔵【通期展示】



左
国宝 伊藤若冲
動植綵絵 南天雄鶏図
江戸時代、宝暦11年～明和2年(1761～65)
皇居三の丸尚蔵館収蔵【通期展示】

全三十幅を、一堂に。

18世紀の京都で活躍した絵師・伊藤若冲が描いた「動植綵絵」は、30幅からなる大規模な作品です。本展では、令和3年(2021)の国宝指定後初となる30幅一斉公開をいたします。さらに、同時代の絵師たちによる名品の数々も華を添えます。
(当館研究員 上嶋悟史)

● 会期中、一部作品の展示替えを行います。

展覧会特設サイトはこちら
<https://shozokan.nich.go.jp/feature/grand-opening/jakuchu/>

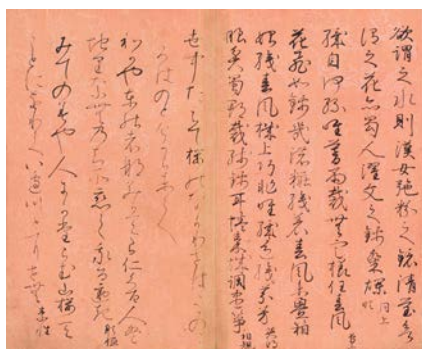


Japanese Calligraphy: A 1,300-Year Legacy of Beauty

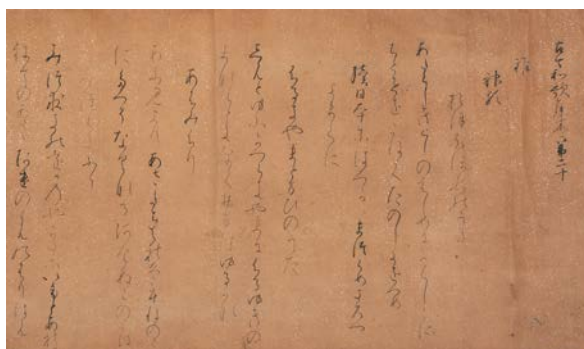
第三弾

特別展「日本の書の美1300年」

令和9年(2027)3月25日(木)～5月16日(日)



国宝 粘葉本和漢朗詠集
伝藤原行成筆 平安時代(11世紀)
皇居三の丸尚蔵館収蔵【前期：巻上、後期：巻下】



国宝 高野切本古今和歌集 巻第二十
伝紀貫之筆 平安時代(11世紀) 高知県立高知城歴史博物館蔵
【後期のうち4月30日～5月16日】

珠玉の名筆、ここに集う。

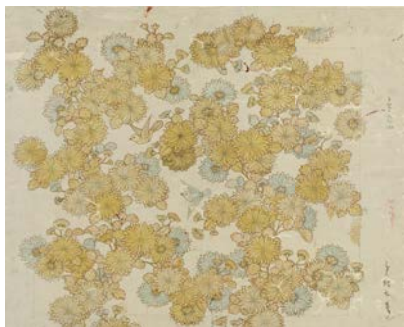
日本の書は、宮廷や貴族、寺社を中心に育まれながら、広く人々に親しまれる文化となり、今に受け継がれています。その美を奈良時代から近現代まで、国宝・重要文化財を多数含む名筆約100件でご覧いただきます。(当館研究員 山田千穂)

● 会期中、作品の大幅な展示替えを行います。

前期：令和9年(2027)3月25日(木)～4月18日(日) 後期：令和9年(2027)4月21日(水)～5月16日(日)

展覧会特設サイトはこちら
<https://shozokan.nich.go.jp/feature/grand-opening/calligraphy/>





図案 左側面



左側面(部分)



収蔵品
Pick Up

重要文化財

菊蒔絵螺鈿書棚

蒔絵：川之邊一朝ほか
図案：六角紫水
明治36年(1903)
皇居三の丸尚蔵館収蔵

若き才能の図案から
当代一の蒔絵師が仕上げた、
明治を代表する傑作

展示室の照明を浴びて一層煌めく蒔絵の棚、そのまばゆさに誰もがため息をつかずにはいられないでしょう。明治天皇の御手許の品となることを目的に、構想から完成まで約11年をかけて製作された、明治時代を代表する記念碑的作品です。

総高約122センチ、細い4本の柱や脚が2つの厨子(両開きの扉のついた収納棚)を支えています。全体は金地で整えられ、高蒔絵(模様を盛り上げて立体的に表現する蒔絵技法)と夜光貝の螺鈿であふれるほどの菊花とその中を飛び遊ぶ小鳥たちの姿を表しています。この棚には大きな特徴がひとつ。実は表面の見える部分だけでなく、棚の裏側や柱などの細かい部分、厨子の内部にまで同じ文様が装飾され、さらにその文様は途切れることなく続いています。棚はさまざまなパーツを装飾してから組み上げるので、緻密な文様配置の計画、高い蒔絵の技術力がなければ、実現不可能な驚異的な作品です。

当館には当時27歳の六角紫水が描いた図案も伝わっています。例えば向かって左側面の図案を見てみましょう。黄色の部分は高蒔絵、青い部分

は螺鈿を指示していますが、作品と比べると菊の蕾や葉が数か所、高蒔絵から螺鈿に変更されています。また螺鈿も金の輪郭線で縁取るものと、中の花卉を金蒔絵で塗りつぶす、2種の表現がありますが、その指示も図案にはありません。蒔絵製作を統括した川之邊一朝と共に図案に沿いながら、より上品にバランスを考えて製作した過程が想像できます。(当館研究員 木村真美)

POINT 実物でこそ 美と技 感じられる

- 1 棚板裏や背面まで続く途切れない文様
棚板の表から裏側、柱を伝って側面から背面まで、小さな段差さえ模様が途切れない驚異の装飾。
- 2 金一色だけじゃない、蒔絵の表現力の幅
15種の蒔絵粉と小さな金箔片を巧みに使い分け、菊の花・葉・萼をそれぞれ表現しています。

皇居三の丸尚蔵館グランドオープン記念特別展「皇室の至宝—美いづるところ」前期(11/3~11/23)展示 ※図案は展示されません。

※「皇居三の丸尚蔵館収蔵」と記載の文化財は、館の所蔵品または収蔵の国有品を指す。

「皇室の至宝—美いづるところ」関連イベント

● 記念講演会

特別展の開催を記念して、下記の講演会を行います。

- ①「正倉院の至宝—その歴史と価値」(宮内庁正倉院事務所長 飯田剛彦氏)
- ②「美いづるところ—皇居三の丸尚蔵館のあゆみと名品」(当館主任研究員 田中純一郎)

日時: ①令和8年(2026)11月14日(土) ②12月5日(土)
各日13:30~15:00(90分)

会場: 当館講堂 定員: 90名(事前申込制・先着順)

参加方法: ART PASSから記念講演会聴講券(展覧会観覧券つき)のご予約が必要です。通常は事前予約不要の、障がい者手帳をお持ちの方および付添者1名、小学生以下の方もご予約が必要です。詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。



● スライドトーク

特別展の内容やみどころについて当館研究員がわかりやすく説明します。

日時: 令和8年(2026)11月20日(金)、12月11日(金)、
令和9年(2027)1月8日(金)
各日18:30~19:00(30分)

会場: 当館講堂 定員: 90名(事前申込制・先着順)

参加方法: ART PASSからスライドトーク聴講券(展覧会観覧券つき)のご予約が必要です。通常は事前予約不要の、障がい者手帳をお持ちの方および付添者1名、小学生以下の方もご予約が必要です。詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。

その他イベントに関する詳細や最新情報は当館ウェブサイトをご確認ください。
皇居三の丸尚蔵館 ウェブサイト <https://shozokan.nich.go.jp/>



子供向けの作品鑑賞サポートツールを配布します!

お子さまにも展示を楽しんでいただけるよう、作品鑑賞をサポートする2種類のツールをご用意しています。ちいさなお子さまから美術・歴史が好きな小中学生まで幅広くご利用いただけます。どちらもデザイン・印刷にこだわって制作しました。ぜひ手に取ってみてください。



しょうぞうかんでこれみっけ!

いろいろな形やモチーフを見つけて楽しむカードです。ビンゴカードのように穴を開けることができます。博物館デビューやゲーム感覚で作品鑑賞をしたいお子さまにおすすめです。



ミッションカード

さまざまな視点から作品を見て、自分なりに想像を膨らませてみましょう。レベル別に全6種類用意しており、裏面は書き込み式となっています。



これからの展覧会

特別展「国宝 動植綵絵 いろどりの世界」

令和9年(2027)2月4日(木)～3月14日(日)

※会期中、一部の作品の展示替えを行います。

特別展「日本の書の美1300年」

令和9年(2027)3月25日(木)～5月16日(日)

※会期中、作品の大幅な展示替えを行います。

会員制度のご案内

皇居三の丸尚蔵館賛助会

皇居三の丸尚蔵館賛助会は、当館の運営の趣旨にご賛同いただける方を対象とした寄附会員制度です。個人および団体の皆様に向けて、それぞれ寄附金額に応じた特典をご用意しております。

皇室に受け継がれてきた貴重な文化財を次世代へと守り伝えていくため、当館の活動にご理解とご賛同を賜り、ぜひご入会くださいますようお願い申し上げます。

皇居三の丸尚蔵館賛助会の
詳細・お申し込みはこちらから
<https://shozokan.nich.go.jp/support/supporters/>



ご利用案内

●開館時間

午前9時30分～午後5時 ※最終入館は閉館30分前まで

毎週金曜・土曜は夜間開館

午前9時30分～午後8時まで開館

※最終入館は午後7時30分まで

●休館日

月曜日(ただし月曜が祝日または休日の場合は開館し、翌平日休館)、年末年始、天皇誕生日および展示替期間

※その他諸事情により臨時に休館する場合があります。

●観覧料

展覧会ごとに異なります。

詳しくは当館ウェブサイトをご覧ください。

※障がい者手帳をお持ちの方および付添者1名は無料。

※無料対象者に該当する場合は、そのことを係員が確認するため、

入場時に証明書をご提示ください。

※当日の混雑状況により、ご入場までお待ちいただく場合がございます。

●日時指定制

皇居三の丸尚蔵館グランドオープン記念特別展は日時指定制です。

一般・中高大生の方は事前予約が必要です。

会場での当日券販売はございません。

※障がい者手帳をお持ちの方および付添者1名、小学生以下の方は予約不要。

●皇居三の丸尚蔵館までの所要時間

皇居三の丸尚蔵館は、皇居東御苑内にあります。

■大手門から入門

地下鉄各線の大手町駅(C13a出口)から徒歩約5分

JR東京駅(丸の内北口)から徒歩約15分

■大手門以外からの入門

(月曜日・金曜日閉門、その他皇居東御苑の公開日時に準ずる)

■平川門から入門

地下鉄東西線竹橋駅(1a出口)から徒歩約10分

■北桔橋門から入門

地下鉄東西線竹橋駅(1a出口)から徒歩約15分



◆皇居東御苑閉園時の入門は、大手門のみとなります。皇居東御苑の公開日時は、宮内庁ホームページ内・皇居東御苑のページをご確認ください。

◆入門にあたり手荷物検査が行われます。ご来館の際にはお時間に余裕をもってお越しください。

◆入園者は皇居東御苑内に車両を乗り入れることができません。専用駐車場、駐輪場はございませんので、周辺の駐車場・駐輪場をご利用ください。

入館方法、開館時間、休館日、展示等の最新情報は皇居三の丸尚蔵館ウェブサイトをご確認ください。



The Museum of the Imperial Collections,
Sannomaru Shozokan

皇居三の丸尚蔵館

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-8(皇居東御苑内)
お問い合わせ 050-5541-8600(ハローダイヤル)

皇居三の丸尚蔵館ウェブサイト
<https://shozokan.nich.go.jp/>



皇居三の丸尚蔵館公式 Instagram / YouTube
@shozokan_pr